

第 33 回三遠南信サミット 2025 in 南信州

第 1 分科会 報告書

1. タイトル

人口減少時代における生活・社会インフラの活用について

2. 概要

人口減少時代における生活・社会インフラの整備・維持管理や活用について、各団体の課題を共有するとともに、既存の行政区域に拘らない広域的な視点で、今後の広域連携の在り方について意見交換を行った。

3. 日時

令和 7 年 10 月 6 日（月） 午後 1 時 00 分から午後 2 時 30 分

4. 会場

飯田文化会館（ホール）

5. 登壇者一覧

No.	所属	役職	氏名	役割
1	愛知大学地域政策学部	教授	戸田 敏行	コーディネーター
2	豊橋市企画部政策企画課	課長	大林 美依	事例紹介者
3	豊橋市	市長	長坂 尚登	発言者
4	田原市	市長	山下 政良	発言者
5	湖西市	市長	田内 浩之	発言者
6	飯島町	町長	唐澤 隆	発言者
7	平谷村	村長	西川 清海	発言者
8	天龍村	村長	永嶺 誠一	発言者
9	泰阜村	村長	横前 明	発言者
10	喬木村	村長	市瀬 直史	発言者
11	飯田商工会議所	会頭	原 勉	発言者
12	伊那商工会議所	会頭	唐木 和世	発言者
13	豊橋市議会	議長	小原 昌子	発言者
14	浜松市議会	議長	高林 修	発言者
15	飯田市議会	議長	竹村 圭史	発言者
16	NPO 法人地域づくりサポートネット	代表理事	山内 秀彦	発言者
17	和合小学校 PTA 内親子山村留学実行委員会	委員	小掠 純子	発言者

6.議論内容

(1) 事例紹介

SENA 構成団体への事例アンケートについて（第 1 分科会事務局 豊橋市）

概要：SENA 構成団体の市町村へ生活・社会インフラの持続可能度と今後の連携についての事前アンケートを行い、とりまとめた結果を報告。

(2) 発言者による議論

ア 事前アンケートで取り上げた生活・社会インフラを持続するための課題とその課題に対する危機感を踏まえた対応策について。特に、連携して取り組んでいる施策や活動について。

イ 三遠南信自動車道を中心とする幹線道路整備が与える生活・社会インフラへの効果や今後の連携への期待について。

【協議における参加者からの主な意見】

公共交通インフラについて、運転手確保や公共交通を維持していくために、近隣市町村の連携による事業者支援や県境を越えたコミュニティバス等の運行等による連携などの意見があった。

医療インフラについて、診療所の土日祝日・夜間などの時間外対応をしていくためには、医療従事者確保が必須であり、県境を越えた連携や拠点病院とのリモート診療の運用、開業医の承継の広域実施などの意見があった。

上下水道インフラについては、将来の労働力不足に対応するために、水質検査など維持管理の共同化や分散型水循環システムの推進などの意見があった。

インフラ全般における課題については、公共インフラの維持管理に関わる技術者の確保が難しいなどの意見があり、解決策としては広域的な研修の実施による技術の承継のほか、地域特性に応じた施策の実施や広域的な情報インフラの構築などの意見があった。

三遠南信自動車道を中心とする幹線道路整備が与える生活・社会インフラへの効果については、災害時の広域的な支援の円滑化や応急給水、応急復旧などスムーズな相互応援が可能という意見があり、特に三遠南信自動車道が南北にのびていることへの期待もあった。三遠南信エリア全体で人やモノの流れを活発化させ、ともに支え合う地域構造を目指すとともに、各インフラに対して具体的に対応をしていくことが必要という意見があった。

7.まとめ

人口減少時代において、公共交通や医療などの生活・社会インフラの課題を共有し、維持・管理していくために必要な連携先を共有することができた。これらの課題を個別の事業として、解決に向けた連携事業や手法で、広域的な視点も踏まえて早急に対応していく必要がある。その上で、広域的な連携の推進には、三遠南信自動車道をはじめとした幹線道路の整備促進が重要であり、地域が一体となって提言をしていくことが不可欠であるとする結論を得た。

8.当日の様子

◆事例紹介

(第1分科会事務局 豊橋市)



◆コーディネーター

(愛知大学 地域政策学部教授 戸田氏)



◆発言

(SENA 副会長 長坂豊橋市長)



◆発言

(SENA 副会長 原飯田商工会議所会頭)

